

(仮称) 新むつ小川原ウィンドファーム事業
環境影響評価方法書についての
意見の概要と事業者の見解

平成 31 年 4 月

エコ・パワー株式会社

目 次

第 1 章 環境影響評価方法書の公告及び縦覧.....	1
1. 環境影響評価方法書の公告及び縦覧	1
(1) 公告の日	1
(2) 公告の方法.....	1
(3) 縦覧場所.....	2
(4) 縦覧期間.....	2
2. 環境影響評価方法書についての説明会の開催	3
(1) 公告の日及び公告方法.....	3
(2) 開催日時、開催場所及び来場者数.....	3
3. 環境影響評価方法書についての意見の把握.....	4
(1) 意見書の提出期間.....	4
(2) 意見書の提出方法.....	4
(3) 意見書の提出状況.....	4
第 2 章 環境影響評価方法書について提出された環境保全の見地からの意見の概要と事業者の見解	5

第 1 章 環境影響評価方法書の公告及び縦覧

1. 環境影響評価方法書の公告及び縦覧

「環境影響評価法」第 7 条の規定に基づき、環境保全の見地からの意見を求めるため、方法書を作成した旨及びその他事項を公告し、方法書を公告の日から起算して 1 月間縦覧に供した。

(1) 公告の日

平成 31 年 2 月 13 日（水）

(2) 公告の方法

① 日刊新聞紙による公告（別紙 1 参照）

下記日刊新聞紙に「公告」を掲載した。

・平成 31 年 2 月 13 日（水）付 東奥日報（朝刊：25 面）

② インターネットによるお知らせ

平成 31 年 2 月 13 日（水）から、下記のウェブサイト「お知らせ」を掲載した。

・六ヶ所村のウェブサイト（別紙 2-1 参照）

・エコ・パワー株式会社のウェブサイト（別紙 2-2 参照）

(3) 縦覧場所

各事業、関係自治体庁舎の1箇所において縦覧を行った。また、インターネットの利用により縦覧を行った。

① 関係自治体庁舎での縦覧

六ヶ所村役場政策推進課内

② インターネットの利用による縦覧

エコ・パワー株式会社のウェブサイト環境影響評価方法書のPDFを掲載。

<https://www.eco-power.co.jp/assess/shinmutu.html>

(4) 縦覧期間

- ・ 縦覧期間：平成31年2月13日（水）から平成31年3月14日（木）まで
（土・日曜日、祝日を除く。）
- ・ 縦覧時間：各庁舎の開庁時間内

なお、インターネットの利用による縦覧については、上記の期間、終日アクセス可能な状態とした。

2. 環境影響評価方法書についての説明会の開催

「環境影響評価法」第7条の2の規定に基づき、方法書の記載事項を周知するための説明会を開催した。

(1) 公告の日及び公告方法

説明会の開催公告は、環境影響評価方法書の縦覧等に関する公告と同時に行った。

(別紙1参照)

(2) 開催日時、開催場所及び来場者数

説明会の開催日時、開催場所及び来場者数は以下のとおりである。

① 室ノ久保公民館

・ 開催日時：平成31年3月2日(土) 18:00～19:10

・ 来場者数：12名

3. 環境影響評価方法書についての意見の把握

「環境影響評価法」第8条の規定に基づき、環境保全の見地から意見を有する者の意見の提出を受け付けた。

(1) 意見書の提出期間

平成31年2月13日（水）から平成31年3月28日（木）まで
（郵送による意見書は当日消印まで有効とした。）

(2) 意見書の提出方法

環境保全の見地からの意見について、以下の方法により受け付けた（別紙3参照）

- ①縦覧場所に設置した意見書箱への投函
- ②紙面による当社への郵送
- ③FAXによる当社への送信

(3) 意見書の提出状況

意見書数：2通、意見数：35件

第2章 環境影響評価方法書について提出された環境保全の見地からの意見の概要と事業者の見解

「環境影響評価法」第8条第1項の規定に基づいて、事業者に対して提出された環境保全の見地からの意見は35件であった。これに対する事業者の見解は、次のとおりである。

環境影響評価方法書についての提出された環境保全の見地からの意見と事業者の見解(1)

<動物>

埼玉県さいたま市A氏

意見	一般の意見	事業者の見解
1	<p>コウモリ類について 欧米での風力発電アセスメントにおいて、最も影響を受ける分類群として、コウモリ類と鳥類が懸念されており（バット&バードストライク）、その影響評価等において重点化されている。 国内でもすでに風力発電機によるバットストライクが多数起きており、不確実性を伴うものではなく、確実に起きる事象と予測して影響評価を行うべきである。 このことを踏まえて環境保全の見地から、本方法書に対して以下の通り意見を述べる。 なお、本意見は要約しないこと。</p> <p>1. 方法書においてコウモリ類についてのヒアリングを行ったことは評価される。</p>	<p>コウモリ類への影響が懸念されていることは認識しており、本方法書においても哺乳類調査の中でコウモリ類については別立てで記載させていただきました。 方法書段階ではローターの回転高度等未確定の部分もあり、コウモリ類の高度調査等の手法について詳細な手法等は記載しておりません。 また、事業や当該地域の環境に即した調査計画となるよう柔軟な対応に努め、実際の調査時間、使用した機材の仕様は準備書において記載いたしますが、現時点で予定している調査手法等については、以下のとおり、見解を記載させていただきます。 意見書は要約せず、全文公開しています。</p>
2	<p>2. 捕獲調査時にも、バットディテクターによるコウモリ類の在不在・飛翔状況の記録をとる必要がある。</p>	<p>専門家の助言を踏まえ、必要に応じて捕獲調査時にバットディテクターによる記録を実施いたします。</p>
3	<p>3. 自動録音法で設置するマイク高を記載すること。</p>	<p>マイクの設置高は準備書に記載します。なお、マイクの設置高は、2高度（地表からブレード回転域より下、ブレード回転域）、設置方向は水平を予定しています。</p>
4	<p>4. バッドディテクターで得られた音声記録の解析に用いる手法を記載すること。</p>	<p>音声記録の解析に用いる手法は準備書に記載します。録音したデータをBatSoundver4.2（Pettersson社製）等で読み込みコウモリのエコーロケーションが記録された時間を整理します。コウモリ識別ハンドブック【改訂版】等に従い、最大振幅時の周波数からグループを区分し、該当するグループを整理する予定です。</p>
5	<p>5. 既設風車においてコウモリ類の死骸調査（バットストライク）を実施する旨が明確に記載されていない。哺乳類（コウモリ類）の項目に記述すること。</p>	<p>既設風車においてもコウモリ類の死骸調査（バットストライク）を実施いたします。</p>
6	<p>6. 死骸調査は発電機の保安員が点検の際に実施することなく、専門の調査員が実施すること。また、日常の点検の際に確認された死骸についても放置することなく記録回収を行い、各分類群の専門家に同定を依頼すること。</p>	<p>死骸調査はコウモリ類についての十分な経験と知識を持った調査員が実施する予定です。日常の点検の際に確認された死骸についても、可能な限り記録回収を行います。</p>
7	<p>7. コウモリ類の調査手法にレーダー調査を採用しない理由を述べよ。</p>	<p>レーダー調査では小鳥とコウモリの区別ができないため採用しない予定です。</p>
8	<p>8. 今後の準備書においてもコウモリ類の専門家の指導を仰ぎ、コウモリ類についての十分な経験と知識を持った者による適切な調査、予測評価、保全措置が行われることを期待する。</p>	<p>コウモリ類の専門家の指導を仰ぎ、コウモリ類についての十分な経験と知識を持ったものによる適切な調査、予測評価、保全措置を実施いたします。</p>

注：一般の意見は原文のとおり記載している。

環境影響評価方法書についての提出された環境保全の見地からの意見と事業者の見解(2)

<動物>

神奈川県川崎市B氏

意見	一般の意見	事業者の見解
9	<p>■コウモリ類について</p> <p>コウモリは夜間にたくさんの昆虫を捕食するので、生態系の中で重要な役割を持つ動物である。また害虫を食べるので、人間にとって、非常に役立つ益獣である。しかし風力発電施設では、バットストライクが多数生じている。NEDOの報告(*)によれば、実態把握サイト(風力発電施設10サイト)におけるコウモリ類の推定死亡数は年間502.8個体であり、これは鳥類の年間推定死亡数(257.6羽)のおよそ2倍になる。コウモリ類の出産は年1~2頭程度と、繁殖力が極めて低いため、死亡率のわずかな増加が、地域個体群へ重大な影響を与えるのは明らかである。国内では今後さらに風車が建設される予定であり、コウモリ類について累積的な影響が強く懸念される。これ以上風車で益獣のコウモリを殺さないでほしい。</p> <p>*平成28年度~平成29年度成果報告書 風力発電等導入支援事業 環境アセスメント調査早期実施実証事業環境アセスメント迅速化研究開発事業(既設風力発電施設等における環境影響実態把握I報告書) P213, NEDO, 2018</p>	<p>コウモリ類は、生態系の中で、他の動植物と同様に重要な役割を持つ存在であること、また、害虫を捕食し、人間にとって役に立つということを理解しております。</p> <p>コウモリ類については、まずは方法書P.6-30~6-34に示しましたとおり調査を実施し、現地のコウモリ類の生息状況を把握し、それを基に予測及び評価を致します。今後も新たな知見を収集し、保全措置について検討いたします。</p>
10	<p>■コウモリ類の保全措置として「稼働制限」を実施してほしい</p> <p>国内では、すでに多くの風力発電事業者が、コウモリ類の保全措置としてフェザリングやカットイン風速を調整するなどの稼働制限を行うことを表明した。大変素晴らしいことだと思う。是非、本事業者も検討してほしい。ただし、保全措置は事業者の主観ではなく、現地調査結果及び予測結果を踏まえるべきである。</p>	<p>弊社は、本事業において、コウモリ類と共存する風力発電所の実現を目指しておりますが、コウモリ類の生態には未知の部分が多いため、まずは方法書P.6-30~6-34に記載しましたとおり、調査とその結果の分析を進めて、現地のコウモリ類の生息状況の把握に努めます。その結果に基づいて、予測及び評価を実施するとともに、引き続き新たな知見の収集を行い、より適切な保全措置の策定の検討を進めてまいります。</p>
11	<p>■コウモリ類について</p> <p>事業者は重要種以外のコウモリについて影響予測や保全をしないようだが、「重要種以外のコウモリは死んでも構わない」と思っているのか?日本の法律ではコウモリを殺すことは禁じられているはずだが、本事業者は「重要種以外のコウモリ」について、保全措置をとらずに殺すつもりか?</p>	<p>方法書P.6-30~6-34に記載しましたとおり、重要種以外のコウモリについても現地調査を実施し、現地のコウモリ類の生息状況の把握に努めます。その結果に基づき、コウモリ類について学識と経験を有される研究者へのヒアリング等を踏まえて、適切な保全措置を検討いたします。</p>
12	<p>■バットストライクの予測は定量的に行うこと</p> <p>事業者が行うP258「高度別自動録音調査(自動録音バットディテクターによる調査)」は定量調査であり、予測手法(解析ソフト)もすでに実在する(例えば「WINDBAT」http://www.windbat.techfak.fau.de/index.shtml)よって、バットストライクの予測は「定量的」に行い客観的数値で示すこと。</p>	<p>バットストライクの定量的な予測は未だ確立されておらず、大きな不確実性を伴っていると考えられるため、定性的な予測及び評価を実施するとともに、引き続き新たな知見の収集に努めてまいります。</p>
13	<p>■「バットストライクに係る予測手法」について経済産業大臣に技術的な助言を求めること</p> <p>「既に得られている最新の科学的知見」によれば、バットストライクに係る調査・予測手法は欧米では確立されている技術である。しかしながら日本国内では、ブレード回転範囲におけるコウモリ類の調査が各地で行われながらも、「当該項目について合理的なアドバイスを行えるコウモリ類の専門家」の絶対数は少なく、適切な調査・予測及び評価を行えない事業者が散見される。事業者がヒアリングしたコウモリ類の専門家について、仮に「地域のコウモリ相について精通」していたとしても、「バットストライクの予測」に関しては、必ずしも適切なアドバイスができるとは限らない。仮に事業者が「コウモリ類の予測は定量的にできない」と主張する場合は、環境影響評価法第十一条第2項に従い、経済産業大臣に対し、「バットストライクに係る予測手法」について「技術的な助言を記載した書面」の交付を求めること。</p>	<p>ご意見を踏まえて専門家にヒアリングを実施し、適切な手法による予測を実施いたします。</p>

注: 一般の意見は原文のとおり記載している。

環境影響評価方法書についての提出された環境保全の見地からの意見と事業者の見解(3)

<動物>

神奈川県川崎市B氏

意見	一般の意見	事業者の見解
14	■専門家のヒアリング年月日を記載したことは評価される	—
15	■コウモリの音声解析について コウモリの周波数解析(ソナグラム)による種の同定は、国内ではできる種とできない種がある。図鑑などの文献にあるソナグラムはあくまで参考例であり、実際は地理的変異や個体差、ドップラー効果など声の変化する要因が多数あるため、専門家でも音声による種の同定は慎重に行う。仮に種の同定を誤れば、当然ながら誤った予測評価につながるだろう。よって、無理に種名を確定しないで、グループ(ソナグラムの型)に分けて利用頻度や活動時間を調査すべきである。	周波数解析につきましてはご指摘のとおり種の同定が難しいため、コウモリのエコーロケーションが記録された時間を整理します。コウモリ識別ハンドブック【改訂版】等に従い、最大振幅時の周波数からグループを区分し、該当するグループを整理する予定です。
16	■コウモリの音声録音について 捕獲によって攪乱が起こるので、自動録音調査と捕獲調査は、同日に行うべきでない(捕獲調査日の録音データは使用しないこと)。	自動録音調査と捕獲調査の調査日が重なる場合には、データの扱いについて留意いたします。
17	■コウモリの捕獲調査について ・コウモリ類について配慮のかけた不適切な捕獲を行う業者がいる。よってコウモリの捕獲及び許可申請の際には必ず「コウモリ類の専門家」の指導をうける(うけさせる)べきだ。 ・6月下旬ー7月中旬はコウモリ類の出産哺育期にあたるため、捕獲調査を避けるべきではないのか。 ・ハーブトラップは高空を飛翔するコウモリを捕獲できないので、カスミ網も併用するべきではないか。 ・捕獲したコウモリは、麻酔をせずに、種名、性別、年齢、体重、前腕長等を記録し、すみやかに放獣するべきではないか。 ・捕獲個体やねぐらに残した幼獣への影響が大きいため、ハーブトラップは、かならず夜間複数回見回るべきだ(夕方設置して、見回りせずに朝方回収などということをして絶対に行わないこと)。 ・捕獲した個体を持ち帰り飼育しないこと。 ・捕獲した個体を素手で扱わないこと。 ・冬眠中の個体を絶対に覚醒させないこと。 ・冬眠中の個体を絶対に捕獲しないこと。	ご意見および専門家の助言を踏まえて、適切に捕獲調査を実施いたします。
18	■P260 高度別自動録音調査の調査地点について バットディテクターによる高度別自動録音調査の調査地点が3か所のみであるが、その根拠を述べよ。「利用頻度を比較する」つもりならば、すべての風力発電機設置位置(9箇所)において日没前から日の出まで自動録音調査すべきではないのか。	高度別自動録音調査の調査地点は、対象事業実施区域内の海側や山側等、当該区域のコウモリの現況を適切に把握できると考えられる3か所を選定しています。
19	■高度別自動録音調査の期間について 高度別自動録音調査の期間は春季から秋季としているが、曖昧である。専門家ヒアリングを踏まえた具体的な月数を述べること。	専門家へのヒアリングを踏まえ、適切な調査期間を設定いたします。調査期間は春季(5月)から秋季(10月)を予定しています。
20	■高度別自動録音調査の調査時間について 高度別自動録音調査の調査時間の記載がない。日没1時間前から、日の出1時間後まで録音すること。	ご指摘のとおり日没1時間前から、日の出1時間後までを目途に録音する予定としています。
21	■バットディテクターによる調査について バットディテクターの探知距離は短く、地上からでは高空、つまりブレードの回転範囲の音声はほとんど探知できない。よって準備書には使用するバットディテクターの探知距離とマイクの設置方向(上向きか下向きか)を記載すること。 なお「仕様書に書いていない(ので分からない)」などと回答する事業者がいたが、バットディテクターの探知距離は影響予測をする上で重要である。わからなければ自分でテストして調べること。	ご指摘を踏まえ、バットディテクターの探知距離に留意いたします。マイクの向きに関しては、バットディテクターによる調査ではバットディテクターを手で持ち調査を行うため、一定方向のみではなく任意の方向にマイクを向けて調査を実施します。
22	■月2回程度の死骸探索調査など信用できない コウモリの死骸はスカベンジャーに持ち去られて3日程度で消失することが明らかとなっている。仮に月2回程度の事後調査で「コウモリは見つからなかった」などと主張しても、科学的な根拠は乏しい。	今後の現地調査により得られたコウモリ類の出現状況等を基に、専門家の助言も踏まえながら検討します。

注：一般の意見は原文のとおり記載している。

環境影響評価方法書についての提出された環境保全の見地からの意見と事業者の見解(4)

<動物>

神奈川県川崎市B氏

意見	一般の意見	事業者の見解
23	<p>■バードストライク（死骸調査）の調査頻度について</p> <p>「哺乳類、鳥類、希少猛禽類、渡り鳥の調査時期の各回で1回以上実施する。各回で2日間程度とする」とあるが、結局のところ月に何回実施するのか曖昧だ。月に何回「2日間連続」で死骸調査をするのか明記すること。コウモリ類の体は小さく羽毛などの痕跡も残らないため発見率は低い。最低でも月4回以上（連続2日を月2回では不十分である。可能ならば毎日か、3日に1回程度の頻度で実施すること）の死骸調査をコウモリ類の活動期間中「毎月」実施すること。</p>	<p>バードストライク（死骸調査）の調査は、「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」（環境省、平成27年修正版）に準拠し、月に1～2回を1年間実施します。</p> <p>ご指摘いただいた点も含め、今後も新たな知見を収集し、専門家の助言も踏まえながら検討します。</p>
24	<p>■「回避」と「低減」の言葉の定義について</p> <p>事業者とその委託先のコンサルタントにあらかじめ指摘しておく。事業者らは「影響の回避」と「低減」の言葉の定義を本当に理解しているだろうか。</p> <p>事業者らは、コウモリ類への保全措置として「ライトアップをしない」ことを掲げるはずだが、「ライトアップをしない」ことは影響の『回避』措置であり、『低減』措置ではない。「ライトアップしないこと」により「ある程度のバットストライクが『低減』された事例」は、これまでのところ一切報告がない。</p>	<p>「回避」及び「低減」については、「環境アセスメント技術ガイド 生物の多様性・自然との触れ合い」（一般社団法人 日本環境アセスメント協会、平成29年）に記載されているとおり、以下のように考えております。</p> <p>回避：行為（環境影響要因となる事業における行為）の全体又は一部を実行しないことにより影響を回避する（発生させない）こと。重大な影響が予測される環境要素から影響要因を遠ざけることにより影響を発生させないことも回避といえる。</p> <p>低減：何らかの手段で影響要因又は影響の発現を最小限に抑えること、又は、発現した影響を何らかの手段で修復する措置。</p>
25	<p>■回避措置（ライトアップアップの不適用）について</p> <p>ライトアップをしていなくてもバットストライクは発生している。</p> <p>これについて事業者は「ライトアップアップをしないことにより影響はある程度低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できると思う」という主張は事業者の主観に過ぎない。</p>	<p>ご指摘いただいた点も含め、今後も新たな知見を収集し、環境保全措置を検討いたします。</p>
26	<p>■回避措置（ライトアップアップの不適用）について</p> <p>ライトアップをしていなくてもバットストライクは発生している。これは事実だ。</p> <p>昆虫類はライトだけでなくナセルから発する熱にも誘引される。またナセルの隙間、ブレードの回転音、タワー周辺の植生や水たまりなどコウモリ類が誘引される要因は様々であることが示唆されている。</p> <p>つまりライトアップは昆虫類を誘引するが、だからといって「ライトアップしないこと」により「コウモリ類の誘引を完全に『回避』」できるわけではない。完全に『回避』できないのでバットストライクという事象、つまり「影響」が発生している。アセスメントでは影響が『回避』できなければ『低減』するのが決まりである。よって、コウモリ類について影響の『低減』措置を追加する必要がある。</p>	<p>ご指摘いただいた点も含め、今後も新たな知見を収集し、環境保全措置を検討いたします。</p>
27	<p>■コウモリ類の保全措置（回避）について</p> <p>樹林内に建てた風車や、樹林（林縁）から200m以内に建てた風車は、バットストライクの高くなる。よって、風力発電機は樹林から200m以上離すこと。</p>	<p>ご指摘いただいた点も含め、今後も新たな知見を収集し、風力発電機の設定位置及び環境保全措置を検討いたします。</p>

注：一般の意見は原文のとおり記載している。

環境影響評価方法書についての提出された環境保全の見地からの意見と事業者の見解(5)

<動物>

神奈川県川崎市B氏

意見	一般の意見	事業者の見解
28	<p>■「ライトアップをしないことによりバットストライクを低減できる」とは書いていない</p> <p>「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引」には、「ライトアップをしないことによりバットストライクを低減できる」とは書いていない。同手引きのP3-110～111には「カットイン風速をあげることで、衝突リスクを低下させることができる」と書いてある。研究で「カットインをあげること」がバットストライクを低減する効果があることが「すでに」判明している。(Effectiveness of Changing Wind Turbine Cut-in Speed to Reduce Bat Fatalities at Wind Facilities Final Report, Edward B. Arnett and Michael Schirmacher, 2010)</p>	<p>ご指摘いただいた点も含め、今後も新たな知見を収集し、環境保全措置を検討いたします。</p>
29	<p>■コウモリ類の保全措置について</p> <p>事業者は「環境影響を可能な限り回避・低減すべく環境保全措置を実施する」つもりが本当にあるのだろうか？既存資料によれば、樹林から200mの範囲に風車を立てないこと（回避措置）、『カットイン風速を限られた期間と時間帯に高く設定すること（低減措置）』がコウモリの保全措置として有効な方法であることがわかっている。この方法は、事業者が「実施可能」かつ「適切な」、コウモリ類への環境保全措置である。</p>	<p>ご指摘いただいた点も含め、今後も新たな知見を収集し、環境保全措置を検討いたします。</p>
30	<p>■コウモリ類の保全措置（低減措置）について</p> <p>コウモリの保全措置として、「カットイン風速の値を上げること」が行われている。事業者は、コウモリの活動期間中にカットイン風速を少しだけあげれば、バットストライクの発生を抑えられることを認識しているのか？</p>	<p>ご指摘いただいた点も含め、今後も新たな知見を収集し、環境保全措置を検討いたします。</p>
31	<p>■コウモリ類の保全措置を「施設の供用開始時から」実施すること</p> <p>上記について事業者は、「国内におけるコウモリの保全事例数が少ないので、（カットイン風速の値を上げる）保全措置は実施しない（事後調査の後まで先延ばしにする）」といった回答をするかもしれないが、環境保全措置は安全側にとること。保全措置は「コウモリを殺すまで」後回しにせず、「コウモリを殺す前」から実施することが重要である。</p>	<p>ご指摘いただいた点も含め、今後も新たな知見を収集し、環境保全措置を検討いたします。</p>
32	<p>■コウモリ類の保全措置を「施設の供用開始時から」実施すること2</p> <p>そもそも「コウモリに影響があることを知りながら適切な保全措置をとらない」のは、未必の故意、つまり「故意にコウモリを殺すこと」に等しいことを先に指摘しておく。仮に「適切な保全措置を実施しないでコウモリを殺してよい」と主張するならば、自身の企業倫理及び法的根拠を必ず述べるように。</p>	<p>ご指摘いただいた点も含め、今後も新たな知見を収集し、環境保全措置を検討いたします。</p>
33	<p>■コウモリ類の保全措置を「施設の供用開始時から」実施すること3</p> <p>上記について事業者は「実際に何個体死ぬか仕組みがよくわからないから（適切な保全措置をせずに）事後調査して、本当に死んだらその時点で保全措置を検討する」などと論点をすり替えるかもしれないが、それは「事後調査」という名目の「実証実験」である。身勝手な「実験」でコウモリを殺してはいけない。保全措置とは「コウモリを殺す前」から安全側で実施する行為である。</p>	<p>ご指摘いただいた点も含め、今後も新たな知見を収集し、環境保全措置を検討いたします。</p>
34	<p>■コウモリ類の保全措置について</p> <p>事業者は目先の利益を優先し、自分たちの子孫につなぐべき生物多様性をとりあげてはいけない。『事後調査でコウモリの死骸を確認したら保全措置を検討する』などという悪質な事業者がいたが、コウモリの繁殖力は極めて低いので、一時的な殺戮が地域個体群へ与える影響は大きい。</p> <p>コウモリの活動期間中に『カットイン風速を少し上げれば』、バットストライクの発生を低減できることはこれまでの研究でわかっている。『ライトアップをしないこと』はバットストライクを『低減する効果』は確認されていない。さらに『事後調査』は『環境保全措置』ではない。</p> <p>『影響があることを予測』しながら『適切な保全措置』をとらないのは、「発電所アセス省令」に違反する。</p>	<p>ご指摘いただいた点も含め、今後も新たな知見を収集し、環境保全措置を検討いたします。</p>
35	<p>■意見は要約しないこと</p> <p>意見書の内容は、貴社側の判断で要約しないこと。要約することで貴社の作為が入る恐れがある。</p> <p>事業者見解には、意見書を全文公開すること。</p>	<p>意見書は要約せず、全文公開しています。</p>

注：一般の意見は原文のとおり記載している。

日刊新聞紙における公告

東奥日報 (平成 31 年 2 月 13 日 朝刊 25 面)

お知らせ

環境影響評価法に基づき、(仮称)新むつ小川原ウインドファーム事業環境影響評価方法を公告・縦覧し、説明会を開催します。

一、事業者の名称 エコ・パワー株式会社
 代表取締役社長 水井利行
 事務所所在地 東京都品川区大崎一丁目六・一
 TOC大崎ビルディング

二、対象事業の名称 (仮称)新むつ小川原ウインドファーム事業
 種類 風力発電所設置事業
 規模 発電設備出力最大三万三千キロワット
 三、対象事業実施区域 青森県上北郡六ヶ所村
 六ヶ所村役場政策推進課内

四、縦覧の場所・時間 (土・日・祝日を除く開庁時に準じます)
 当社ホームページ <https://www.eco-power.co.jp/assess/shimutuhim>
 期間 平成三十一年二月十三日(水)から
 平成三十一年三月十四日(木)まで
 平成三十一年三月二十八日(水)まで

五、意見書の提出 方法書について、環境保全の見地からのご意見をお持ちの方は、書面に氏名、住所及びご意見(日本語をご記入のうえ、平成三十一年三月二十八日(水)までに縦覧場所に備え付けの意見書箱に投函頂くか、または問合せ先へ郵送ください。(当日消印有効)

六、説明会の場所・日時
 室ノ久保公民館 三月二日(土) 十八時～
 七、問い合わせ先(意見書の提出先)
 エコ・パワー株式会社 事業開発部(担当:金子)
 〒一四一・〇三二 東京都品川区大崎一丁目六・一
 TOC大崎ビルディング 電話〇三(五四八七)八五六一

インターネットによる「お知らせ」
(六ヶ所村 ウェブサイト)

「(仮称)新むつ小川原ウインドファーム事業」 環境影響評価方法書の縦覧について

環境影響評価法に基づき、事業者であるエコ・パワー株式会社が計画している「(仮称)新むつ小川原ウインドファーム事業」に係る環境影響評価方法書が下記のとおり縦覧されています。環境影響評価方法書は、当該事業に係る環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法をまとめたものです。

■事業の概要

【事業の名称】(仮称)新むつ小川原ウインドファーム事業
【事業者】エコ・パワー株式会社
【事業の種類】風力発電所(陸上)
【事業の規模】最大33,000キロワット
【対象事業実施区域】青森県上北郡六ヶ所村尾駈

■環境影響評価方法書の縦覧

【期間】平成31年2月13日(水)から平成31年3月14日(木)まで(土日・祝日を除く)
【場所】六ヶ所村役場政策推進課内
【時間】午前8時15分から午後5時まで

※なお、縦覧内容につきましては、下記のホームページで閲覧することもできます。

エコ・パワー株式会社(外部リンク) <https://www.eco-power.co.jp/assess/shinmutu.html>

■環境の保全の見地からの意見書の提出

【期間】平成31年2月13日(水)から平成31年3月28日(木)まで(土日・祝日を除く)
【方法】

「環境影響評価方法書」について、環境の保全の見地からのご意見をお持ちの方は、下記(1)または(2)の方法でご提出ください。

- (1) 縦覧場所に備え付けの意見書箱に投函
- (2) 事業者宛に郵送

〒141-0032 東京都品川区大崎1-6-1 TOC大崎ビルディング

エコ・パワー株式会社 事業開発部(担当:金子) 宛

(平成31年3月28日(木)消印有効)

※意見書に記載する事項:①氏名及び住所、②方法書の名称、③方法書についての環境保全の見地からの意見
(日本語により、意見の理由を含めて記載してください。)

※提出されたご意見は、住所、氏名などの個人情報を除き、公表されることがあります。

■説明会の開催

【開催日時】平成31年3月2日(土)午後6時から午後7時30分(予定)
【開催場所】室ノ久保集会所

■問い合わせ先

エコ・パワー株式会社 事業開発部(担当:金子、広渡)
電話 03-5487-8561
(受付時間:土日祝日を除く、午前9時から午後5時まで)

このページの情報発信部門

六ヶ所村 政策推進課 政策推進グループ

住所:青森県上北郡六ヶ所村大字尾駈字野附475 電話番号:0175-72-2111(内線番号:351から357)

[メールでのお問い合わせはこちらまで](#)

この組織からさがす: [政策推進課/政策推進グループ](#)

登録日:2019年2月1日 / 更新日:2019年2月6日

このページの場所: http://www.rokkasho.jp/index.cfm/7_9895.html

インターネットによる「お知らせ」
(エコ・パワー株式会社 ウェブサイト)



事業内容 企業情報 発電所情報 知る・楽しむ お知らせ お問い合わせ 採用情報

JP EN

お知らせ

[ホーム](#) > [お知らせ](#) > お知らせ詳細

「(仮称)新むつ小川原ウィンドファーム事業 環境影響評価方法書」の公表について

2019.02.13

2019年2月13日

エコ・パワー株式会社

「(仮称)新むつ小川原ウィンドファーム事業 環境影響評価方法書」(以下、方法書)を、環境影響評価法に基づき公表します。

方法書は、2019年2月13日(水)～2019年3月14日(木)の間中は閲覧が可能です。
ただし、ダウンロードして閲覧・印刷することはできません。

方法書に掲載される情報(文書、資料、画像等を含む)に関する著作権は、当社、原作者、またはその他の権利者に帰属しており、各国の著作権法、各種条約及びその他の法律で保護されています。
個人の私的使用、その他著作権法によって認められる範囲を超えて、著作権者及びその他の権利者の許諾を得ることなく、これらの情報を使用(複製、改変、掲示、配布、サイトへの転載等を含む)することは、著作権法により禁止されておりますので、事前に当社にご連絡の上、許諾を得ていただくようお願いいたします。

閲覧時のブラウザは、Internet Explorerを推奨します。(以下の<方法書の公表>に示したリンクより閲覧いただけます。)

<方法書の公表>

[表紙と目次](#)

[第1章 事業者の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地](#)

[第2章 対象事業の目的及び内容](#)

[第3章 対象事業実施区域及びその周囲の概況](#)

[第4章 計画段階配慮事項ごとの調査、予測及び評価の結果](#)

[第5章 配慮書に対する経済産業大臣の意見及び事業者の見解](#)

[第6章 対象事業に係る環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法](#)

[第7章 その他環境省令で定める事項](#)

[第8章 環境影響評価方法書を委託した事業者の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地](#)

[要約書](#)

[環境影響評価方法書に対する意見書の提出について\(意見書様式\)](#)

<方法書の縦覧>

縦覧場所：六ヶ所村役場政策推進課内 (青森県上北郡六ヶ所村大字尾敷字野附475)

縦覧期間：2019年2月13日(水)から2019年3月14日(木)

※いずれも、土・日・祝日を除く開庁時

<お問い合わせ先>

エコ・パワー株式会社 事業開発部(担当：金子、広渡) 電話：03-5487-8561

(受付時間：午前9時00分から午後5時00分まで[土・日曜日及び祝祭日を除く。])

